

ロイコトリエン受容体拮抗剤
気管支喘息・アレルギー性鼻炎治療剤

برانلکاست錠112.5mg「AFP」 برانلکاست錠225mg「AFP」

(برانلکاست水和物錠)

PRANLUKAST Tablets 112.5mg「AFP」・225mg「AFP」

	錠112.5mg	錠225mg
承認番号	22100AMX00026000	22300AMX00365000
薬価収載	2009年5月	2011年6月
販売開始	2009年5月	2011年8月
効能追加	2009年9月	-

貯 法：気密容器、室温保存
使用期限：外箱等に表示

【禁忌(次の患者には投与しないこと)】
本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者

*【組成・性状】

	برانلکاست錠112.5mg「AFP」			برانلکاست錠225mg「AFP」		
成分・含量	1錠中「日本薬局方」 برانلکاست水和物112.5mg			1錠中「日本薬局方」 برانلکاست水和物225mg		
添加物	乳糖水和物、デキストリン、ヒドロキシプロピルセルロース、結晶セルロース、タルク、ステアリン酸マグネシウム					
性状	白色～淡黄色の素錠			白色～淡黄色の割線入り素錠		
外形	表	裏	側面	表	裏	側面
大きさ	直径:7.5mm		厚さ: 2.7mm	直径:9.5mm		厚さ: 3.3mm
質量	約150mg			約300mg		
識別コード	NF 171			NF 172		

【効能・効果】

1. 気管支喘息
2. アレルギー性鼻炎

【用法・用量】

通常、成人にはبرانلکاست水和物として1日量450mg(112.5mg錠：4錠又は225mg錠：2錠)を朝食後及び夕食後の2回に分けて経口投与する。
なお、年齢、症状により適宜増減する。

【使用上の注意】

1. 重要な基本的注意

- (1) 本剤は気管支拡張剤、ステロイド剤等と異なり、すでに起こっている喘息発作を緩解する薬剤ではないので、このことは患者に十分説明しておく必要がある。
- (2) 気管支喘息患者に本剤を投与中、大発作をみた場合は、気管支拡張剤あるいはステロイド剤を投与する必要がある。
- (3) 長期ステロイド療法を受けている患者で、本剤投与によりステロイドの減量をはかる場合は十分な管理下で徐々に行うこと。
- (4) 本剤投与によりステロイド維持量を減量し得た患者で、本剤の投与を中止する場合は、原疾患再発のおそれがあるので注意すること。
- (5) 本剤を含めロイコトリエン拮抗剤使用時にChurg-Strauss症候群様の血管炎を生じたとの報告がある。これらの症状は、おおむね経口ステロイド剤の減量・中止時に生じている。本剤使用時は、特に好酸球数の推移及びしびれ、四肢脱力、発熱、関節痛、肺の浸潤影等の血管炎症状に注意すること。

- (6) 他のロイコトリエン拮抗剤を投与した患者で、因果関係は明らかではないがうつ病、自殺念慮、自殺及び攻撃的行動を含む精神症状が報告されているので、本剤の投与にあたっては患者の状態を十分に観察すること。
- (7) 本剤投与により効果が認められない場合には、漫然と長期にわたり投与しないように注意すること。

2. 相互作用

併用注意(併用に注意すること)

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
主にCYP3A4によって代謝される薬剤	本剤及びこれらの薬剤の血中濃度が上昇する可能性がある。	本剤は <i>in vitro</i> 試験でCYP3A4により代謝され、これらの薬剤の代謝を競合的に阻害するとの報告がある。
CYP3A4を阻害する薬剤 イトラコナゾール エリスロマイシン等	本剤の血中濃度が上昇する可能性がある。	<i>in vitro</i> 、 <i>in vivo</i> 試験でこれらの薬剤により本剤の代謝が阻害されるとの報告がある。

3. 副作用

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。

(1) 重大な副作用

- 1) ショック、アナフィラキシー(頻度不明)：ショック、アナフィラキシーがあらわれることがあるので、観察を十分に行い、血圧低下、意識障害、呼吸困難、発疹等があらわれた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。
- 2) 白血球減少(頻度不明)：白血球減少(初期症状：発熱、咽頭痛、全身倦怠感等)があらわれることがあるので、このような症状があらわれた場合には投与を中止すること。
- 3) 血小板減少(頻度不明)：血小板減少(初期症状：紫斑、鼻出血、歯肉出血等の出血傾向)があらわれることがあるので、このような症状があらわれた場合には投与を中止すること。
- 4) 肝機能障害(頻度不明)：黄疸、AST(GOT)・ALT(GPT)の著しい上昇等を伴う肝機能障害があらわれることがあるので、観察を十分に行い、このような場合には投与を中止し適切な処置を行うこと。
- 5) 間質性肺炎、好酸球性肺炎(頻度不明)：発熱、咳嗽、呼吸困難、胸部X線異常、好酸球増加等を伴う間質性肺炎、好酸球性肺炎があらわれることがあるので、このような症状があらわれた場合には投与を中止し、副腎皮質ホルモン剤の投与等の適切な処置を行うこと。
- 6) 横紋筋融解症(頻度不明)：横紋筋融解症があらわれることがあるので、筋肉痛、脱力感、CK(CPK)上昇、血中ミオグロビン上昇等の症状があらわれた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。また、横紋筋融解症による急性腎不全の発症に注意すること。

(2) その他の副作用

	頻度不明
過敏症 ^(注)	発疹、痒疹、蕁麻疹、多形滲出性紅斑等
精神神経系	頭痛、眠気、めまい、不眠、しびれ、味覚異常、ふるえ、けいれん、興奮、不安
消化器	嘔気、腹痛、胃部不快感、下痢、嘔吐、胸やけ、食欲不振、便秘、腹部膨満感、口内炎、舌炎、舌しびれ
循環器	不整脈（頻脈・心房細動・期外収縮等）、動悸、潮紅
肝 臓	ビリルビン上昇、AST(GOT)・ALT(GPT)の上昇、アルカリホスファターゼ上昇等
筋骨格系	関節痛、筋肉痛、四肢痛、こわばり、CK(CPK)上昇
泌尿器	蛋白尿、尿潜血、頻尿、尿量減少、排尿障害、BUN上昇
その他	胸部絞扼感、発熱、浮腫、倦怠感、トリグリセリド上昇、出血、好酸球増多、咽喉頭異常感、口渇、耳鳴、尿沈渣陽性、脱毛、生理不順、乳房腫脹・硬結、乳房痛、女性化乳房

(注) 発現した場合には、投与を中止するなど適切な処置を行うこと。

4. 高齢者への投与

一般に高齢者では生理機能が低下しているので減量する(例えば、112.5mg錠：1回1錠を1日2回)など注意すること。

5. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与

妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には、治療上の有益性が危険性を上まわると判断される場合にのみ投与すること。〔妊娠中の投与に関する安全性は確立していない。〕

6. 小児等への投与

低出生体重児、新生児、乳児、幼児又は小児に対する安全性は確立していない。〔使用経験が少ない。〕

7. 適用上の注意

薬剤交付時：

PTP包装の薬剤はPTPシートから取り出して服用するよう指導すること。〔PTPシートの誤飲により、硬い鋭角部が食道粘膜へ刺入し、更には穿孔をおこして縦隔洞炎等の重篤な合併症を併発することが報告されている。〕

【薬物動態】

生物学的同等性試験

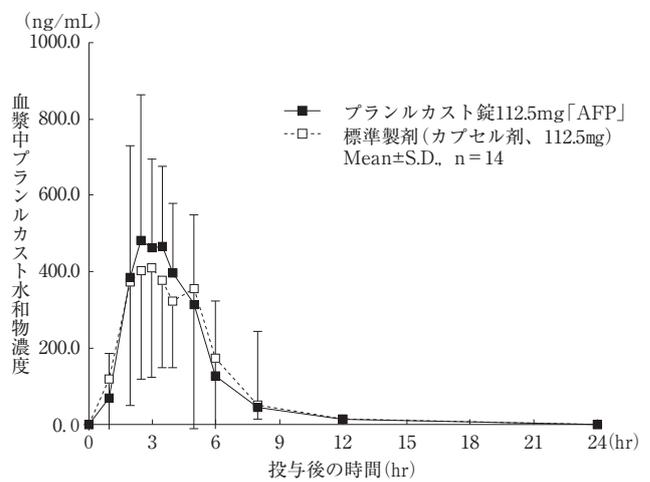
プラナルカスト錠112.5mg「AFP」と標準製剤をクロスオーバー法によりそれぞれプラナルカスト水和物として225mg健康成人男子に空腹時単回経口投与して血漿中プラナルカスト水和物濃度を測定し、得られた薬物動態パラメータ(AUC、Cmax)について統計解析を行った結果、両剤の生物学的同等性が確認された¹⁾。

また、プラナルカスト錠225mg「AFP」は「含量が異なる経口固形製剤の生物学的同等性試験ガイドライン(平成18年11月24日付薬食審査発第1124004号)」に基づき、プラナルカスト錠112.5mg「AFP」を標準製剤としたとき、溶出挙動が等しく、生物学的に同等とみなされた²⁾。

薬物動態パラメータ

	投与量	AUC ₀₋₂₄ (ng・hr/mL)	Cmax (ng/mL)	Tmax (hr)	T _{1/2} (hr)
プラナルカスト錠 112.5mg「AFP」	225mg (2錠)	2101.29± 815.84	665.43± 348.75	3.25± 0.80	2.45± 1.31
標準製剤(カプセル 剤、112.5mg)	225mg (2カプセル)	2105.57± 872.96	664.93± 347.70	3.21± 1.46	2.97± 1.68

(Mean±S.D., n=14)



血漿中濃度並びにAUC、Cmax等のパラメータは、被験者の選択、体液の採取回数・時間等の試験条件によって異なる可能性がある。

**【薬効薬理】³⁾

ロイコトリエン受容体に拮抗し、抗炎症作用、気管支収縮抑制作用を示し、気道過敏症を抑制、また鼻粘膜での抗炎症作用、過敏性抑制作用を示す。

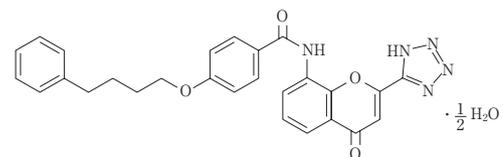
【有効成分に関する理化学的知見】

一般名：プラナルカスト水和物(Pranalucast Hydrate)

* 化学名：N-[4-Oxo-2-(1H-tetrazol-5-yl)-4H-chromen-8-yl]-

4-(4-phenylbutyloxy) benzamide hemihydrate

* 構造式：



分子式：C₂₇H₂₃N₅O₄・1/2H₂O

分子量：490.51

* 性 状：白色～淡黄色の結晶性の粉末である。

エタノール(99.5)に極めて溶けにくく、水にほとんど溶けない。

* 融 点：約233℃(分解)

【取扱い上の注意】

安定性試験⁴⁾

最終包装製品を用いた加速試験(40℃、相対湿度75%、6ヵ月)の結果、プラナルカスト錠112.5mg「AFP」及びプラナルカスト錠225mg「AFP」は通常の市場流通下において3年間安定であることが推測された。

【包 装】

プラナルカスト錠112.5mg「AFP」：140錠、700錠(PTP)、
500錠(バラ)

プラナルカスト錠225mg「AFP」：140錠(PTP)

【主要文献】

1) 高橋秀房 他：医学と薬学，62，79(2009)

2) アルフレッサ ファーマ(株)：生物学的同等性に関する資料(社内資料)

** 3) 第十六改正 日本薬局方第二追補解説書，C-230，廣川書店(2014)

4) アルフレッサ ファーマ(株)：安定性に関する資料(社内資料)

【文献請求先】

主要文献に記載の社内資料につきましても下記にご請求下さい。

アルフレッサ ファーマ株式会社 学術情報部
〒540-8575 大阪市中央区石町二丁目2番9号
TEL 06-6941-0306 FAX 06-6943-8212

alfresa

製造販売元 アルフレッサ ファーマ株式会社
大阪市中央区石町二丁目2番9号